

市民研究員へ意欲語る

県立大 県内や広島市の40人

浜田市野原町の県立大が初めて募集した市民研究員の説明会を兼ねた懇談の集いがこのほど、同大であった。県内や広島市などから希望者約四十人が参加。今後の研究活動に向けて、それぞれ興味を持つテーマなどを披瀝し、教員や大学院生らと交流を深めた。

参加者はその後研究員登録しているが、定員はないため新たな登録も十七日まで受け付ける。十一月三日に第一回の研究会があり、その後外部講師を招くなど月一回程度の定例研究会や、週一回の情報交換サロンなどを来年三月まで開く。院生と共同研究する場合は海外現地調査なども行う。

県立大 ☎ 0855(24)2200。(田中伸武)

宇野重昭学長が「高等教育を社会に開放する市民研究員制度はおそらくわが国初。気楽に参加して意見を出していただき大学院生に刺激も与えてほしい」とあいさつ。主として北東アジアをテーマとする研究の進め方や学内施設の利用方法などを担当教授が説明した。

参加者は公務員や定年退職者など中高年の男性が多く、自己紹介では「戦前のソウルで暮らした経

移民政策を進めたのか理解を深めたい。夫とともに通う」と意欲を見せていた。

験があり韓国について学びたい」「海運や竹島問題の研究したい」などと狙いを語り合った。

中国帰国者自立支援の仕事をしている広島市佐伯区の三好礼子さん(52)は「日本がなぜ満州